

安芸高田市学校規模適正化委員会学校視察

(平成21年度)

- 9月14日 吉田小学校 (5年生 英語・道徳) P1
- 9月15日 吉田小学校 (4年生 国語) P2
- 9月14日 川根小学校 (5・6年生 社会) P3
- 9月15日 川根小学校 (3・4年生 国語) P4



視察参加委員
9月14日 10名 9月15日 2名

吉田小学校 児童数: 男子191名・女子200名 学級数: 16学級 教職員: 35名 (平成21年5月1日現在)

川根小学校 児童数: 男子 8名・女子 14名 学級数: 3学級 教職員: 8名 (平成21年5月1日現在)
--

平成21年9月14日 吉田小学校 5年生授業参観 第1時限目科目 英語

I 《学習指導内容》 概要:教員1名 ALT1名 計2名 授業内容: 外国語活動「いろいろな衣装」
世界には様々な衣装があることを知り、その言い方を理解する。(児童28名)

① つかむ	
・学習準備	先生・生徒間での英語を用いた挨拶
	英語でのコミュニケーション
② さぐる	
・覚える	今日つかう単語について覚える
・実践	CDを使いテキストを解く
・発表する	答え合せを行う
③ 深める・まとめる	
・深め	副材(切り抜き人形絵)を使った個人での取り組み
・まとめ	(今回授業の意味の説明と次回学習の指示)

授業参観は5年生2クラスありそれぞれ違う授業であった。

5年1組の授業は「道徳 私の祖母」であったが、ここでは（I《学習指導内容》は5年2組のみを上げた。）

II 《進捗》

- ①は10分程度で席から児童が移動し挨拶するなど活発な授業であり、先生から児童に対する質問も13名へ直接質問し答えさすなど活発な始まりであった。②は25分程度であり、会話学習で使う単語など事前に覚え、計画的な取り組みとなった。③は絵の切り抜きを行い、自分で絵の服装を色塗りし、英語で服装を発表する授業であったが色塗りの途中で授業時間が終了し、まとめまでには至らなかった。

- 授業は担任の先生とALTとの2名で進め、進行役、サポート役に分かれることで解り易い授業であった、時には役割を入れ替わるなど工夫と連携があった。

III 《学校長と委員との意見交換》

① 全般説明

○ 校長の個人的経験からの意見ではあるが規模について子供が多いこと、少ないことでの良い点、課題はそれぞれにあると思う。(人数が多ければ、子供どうして伸びやすいと思うし、また小規模だと目が届く教育に繋がると思う。)

○ 複式教育について言えば、自学・自習の力は伸びるといえるが、反面児童の多様な意見を引き出すには限界を感じる。

外国(フィンランド)などでは異年齢構成による学習効果を認め複式を取り入れた学級編成を行い、指導しているという話を聞いたことがある。

○ 人格の形成でいえば、多人数でも課題がある。少人数では関係がいったん崩れた場合、受け皿がないなどの問題はあると感じている。(指導する立場からは32・3人を越えた場合には人数が多すぎると感じる。)

より多くの友人の意見を聞ける環境も大事だが、地元を支えられる環境もよいと思う。

○ 学校間の合同授業については、校外活動などで他校との連携は可能と思うが、常時の授業では隣接した環境がなければ移動を含め物理的に難しい、また児童間の人間関係を構築することも難しいと思う。しかし将来的にはTV等を用いた交流については可能性があると思う。

○ TTは算数の授業と一部の道徳の授業で導入し、6年生では県の非常勤講師の配置がある。(算数での少人数制は導入していない)

② よかった点または意見

○ 人数も多く学校全体に活気を感じた。

英語の授業で児童の活気に先生が刺激を受けがんばる雰囲気を感じた。

(早起き会・百万一心劇・自画像制作などの取り組みは学校の活性化に繋がっている)

③ 課題な点または意見

○ 特になし

平成21年9月15日 吉田小学校 4年生授業参観 第1時限目科目 国語

- I <<学習指導内容>> 概要:教員 1名 計1名 授業内容: 調べて発表しよう
点字や手話などの伝え合いの方法を知り、自分の課題をもって調べ学習をする。(児童37名)

① 学習課題の設定	
・あいさつ	(学習雰囲気づくり)
・学習準備	(教科書を音読し、授業内容確認)
② 調べる・さぐる	
・当該授業の目標確認	(点字の成り立ちをのメモ作成)
③ 深める・確かめる	
・ペア学習	(隣とメモを交換し意見を出し合う)
・発表	(個人毎にメモを発表する)
④ 振り返り・まとめ	
・まとめ	(授業内容振り返り音読する)

II <<進捗>>

①は文書ごとに交代し教科書を音読した(約半数の児童が対象) 10分程度 ②は作成の要領を説明し、作業について指示できていた、児童は辞典等を使った調べを行った。10分程度 ③ではペア学習を実施し、隣どうしが書き込んだ内容を添削し自主学習がなされた、数人の児童については発表する時間もあった。④のまとめでは今日習った授業のポイント確認ができ、教科書による振り返りの実施など余裕のある授業展開でもあった。

III <<学校長と委員との意見交換>>

① 全般説明

- 吉田小学校は400人規模の学校となるが人数多い分、ほぼ毎日様々な課題や悩みごとが生まれる。
- 先生の労力のうち時間だけを捉えれば、受け持つ生徒が多ければ増える要因にはなる。
(子どもたちとの日誌のチェック、テスト採点など添削を含めれば、恒常的にも1日8時間の勤務では終わらない。但し、個人情報管理で持ち帰り残業はないと考える。)
- 小人数の学校での先生の苦勞としては一人一人の先生が持つ役割は大きくまた、準備など物理的な大変さを感じる。
印象としては複式の授業は熱意の高い先生に支えられていると感じる。
- 一斉下校などの実施では地域での見守り意識は高いと感じるが、一部では学校に対する期待も大きい(保護者意識では、朝の交通安全や学級通信の充実など学校に依存する体質が大きくなっていると感じる。目に見えない重圧感はある。)

② よかった点または意見

- 児童全員参加(理解)できた授業だと感じた。
- 始業のチャイム、終りのチャイムでの極めができていたと感じた。
(スムーズな授業への流れができていて、またケガ等の防止にもつながっている)

③ 課題な点または意見

- 4年生の学年クラスは共に37名と他の学年と比べると多く、高学年になれば現在の教室では窮屈感(机の配置・先生の生徒間移動)がある。

I <<学習指導内容>> 概要 教員1名 計1名
5年生(3名) 授業内容:自動車を作る工業

① ふれる・つかむの学習	
・復習	
・確認	ハイブリッド車の提示
② さぐるの学習	
・調べる	電気とガソリン車の違い
・指導	ワークシートに書き込ませる
③ ふかめるの学習	
・発表	ハイブリッド車の特徴をまとめる
・実践	エコについての意義を確認する
④ まとめの学習	
・振り返り	(理解できたか確認する)

6年生(2名)2名欠席 授業内容:江戸の文化を作り上げた人々

① ふれる・つかむの学習	
・復習	(前回授業の内容確認)
・確認	昔と今の地図を見比べる
② さぐるの学習	
・調べる	伊能忠敬の地図作りを調べる
・指導	ワークシートに書き込ませる
③ ふかめるの学習	
・発表	(児童どうして調べた内容を確認)
・確かめ	(児童どうしてまとめる)
④ まとめの学習	
・振り返り	(理解できたか確認する)

II <<進捗>>

①は15分程度で授業が進み、②の探るでも15分程度であった。③の深める学習は主に5年生への対応であったが、6年生だけの自主学習も調べ学習や児童どうし意見交換があり積極的な授業であった。5年生・6年生ともに、ふかめる学習まで授業は進み、当日予定する授業の内容までは説明することが出来たが、確認するまでには至らなかった。

III <<学校長と委員との意見交換>>

① 全般説明

○学習内容の進捗については渡り授業などでどうしても遅れる傾向にはあるが、週での授業時間を増やすことで授業進捗を確保している。(復習する時間がどうしても多くなる)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
複式でない小学校	23時間	24	26	27	27	27
川根小学校	25時間	25	29	29	29	29

※ 新指導要領により学校の授業時間は本年度から複式でない学校では各学年1時間づつこれより増えている。

○授業日数については特段他校より多く持つことはないが、PAT会議、資源ごみ回収なども単独では行わず午後からも授業を行うなど工夫を行っている。(2時限・3時限でも授業ができるよう取り組んでいる)

○教頭職は県の独自措置で配置はあるが、1,2年生の担任も併せた受け持ちとなる。

○学校と地域とが密着した取り組みが盛んである。
(1学期・はやし田祭り・蛍祭り 2学期・合同運動会・敬老会交流 3学期・清流祭り)

○授業での担任の負担は通常の先生より大きいと思う(事前準備なども時間を要する)、また地域との交流でも先生はボランティアで参加することが多い。柔軟な対応も必要で、経験の少ない新任の先生では厳しい環境だと思う。(ベテランの先生を配置してもらっているので助かっている)。

○学校での先生の体制は研修や休みなどは調整し、校長先生を含め授業対応しているので困ることは少ないが、緊急の場合などでは不安はある。
また、複式の授業は通常の授業と違うため、教育センターでの研修や複式の発表会(他校の校内研修会)など積極的に参加するよう努めている。

② よかった点または意見

○ 児童一人一人の学習ができており、一人学習の授業に感動した

③ 課題な点または意見

○ 先生の授業努力に対して感銘を受けたが、他校に比べ負担が大きいと思う、優遇された待遇でも良いと思う。

平成21年9月15日 川根小学校 3・4年生授業参観 第4時限目科目 国語

I 《学習指導内容》 概要 教員1名+学習補助員1名 計2名

3年生(2名) 授業内容: 反対の意味の言葉

① ふれる・つかむの学習	
・学習準備	(声出しの練習)
・確認	(今回授業の内容確認)
② さぐるの学習	
・実践	(例題を上げ、実践例を示す)
③ ふかめるの学習	
・練習	(国語辞書で調べる)
・考える	(集めた言葉の意味を考える)
④ まとめの学習	
・振り返り	(理解できたか確認する)
・まとめ	(次回学習などの指示)

4年生(7名) 授業内容: 似た意味の言葉

① ふれる・つかむの学習	
・学習準備	(声出しの練習)
・確認	(今回授業の内容確認)
② さぐるの学習	
・実践	(例題を上げ、実践例を示す)
・考える	(違いを考えさせる)
③ ふかめるの学習	
・練習	(ワークシートの実施)
・考える	(前後の文脈を読む)
④ まとめの学習	
・振り返り	(理解できたか確認する)
・まとめ	(次回学習などの指示)

II 《進捗》

①では3年生・4年生ともに、「にぎる」という単語を授業テーマに上げることで共通の授業展開であった。10分程度 ②では3年生は反対の言葉を勉強させ、4年生では似た言葉ではあるが使い方や意味合いの多少の違いが言葉にはあるところを学習するなど学年間の違う授業へと進んだ20分程度③では3年生は辞書を用いた調べる学習4年生ではワークシートに辞書で調べた単語を記入し考える学習に入ったが3年生では生徒での発表4年生では自習中に授業が終了した。④のまとめは休憩時間に入ったが授業全体のまとめにはならなかった。

III 《学校長と委員との意見交換》

① 全般説明

- 学年、学期により学級の雰囲気は大きく違う、7月の視察時と比べればどの学年も落ち着いた授業ができる環境になっている。
- 学年にもよるが複式の授業は自主学習が必要であり、特に学校に慣れていない低学年では授業の流れができあがりにくい。
- 児童とのかかわりでは、学習指導員を含め児童一人一人へのかかわりは、少人数の学級ほど充実できるが過度に対応することにより対応しないとしない(できない)習慣が生まれやすいよう注意も必要である。
- 小人数であること、男女間の偏りにより多様な意見が出にくい(ヒントカードを作るなど授業での工夫を行っている)

② よかった点または意見

- 特になし

③ 課題な点または意見

- 特になし